

呉工業高等専門学校	建築学科	開講年度	令和05年度 (2023年度)
-----------	------	------	-----------------

学科到達目標

本科の学習・教育目標

- (HA)豊かな教養と国際性の修得
- (HB)工学に関連する基礎知識の修得
- (HC)専門分野の課題に対応できる能力の修得
- (HD)社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力の修得

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
建築学科	本4年	学科	専門	建築設計製図Ⅳ	2	穂垣友康, 鍵山昌信
建築学科	本4年	学科	専門	建築意匠	2	安箱敏
建築学科	本5年	学科	専門	建築法規Ⅰ	2	山中靖彦
建築学科	本5年	学科	専門	建築生産Ⅱ	2	山中靖彦
建築学科	本5年	学科	専門	建築設備Ⅰ	2	河崎啓太
建築学科	本5年	学科	専門	建築設備Ⅱ	2	河崎啓太
合計					12	

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	選択必修	現代文Ⅰ	履修単位	1	2																		花澤 哲文, 上 令子			
一般	選択必修	現代文Ⅱ	履修単位	1			2																花澤 哲文, 上 令子			
一般	選択必修	古典文学Ⅰ	履修単位	1			2																石本 百合子, 上 令子			
一般	選択必修	歴史総合Ⅰ	履修単位	1	2																		菊池 達也			
一般	選択必修	歴史総合Ⅱ	履修単位	1			2																菊池 達也			
一般	選択必修	英語Ⅰ	履修単位	1	2																		笠本 晃代, 大 森 誠			
一般	選択必修	英語Ⅱ	履修単位	1			2																笠本 晃代, 大 森 誠			
一般	選択必修	英語表現Ⅰ	履修単位	1	2																		大森 誠			
一般	選択必修	英語表現Ⅱ	履修単位	1			2																大森 誠			
一般	選択必修	保健	履修単位	1	2																		丸山 啓史			
一般	選択必修	体育Ⅰ	履修単位	2	2	2																	濱口 和豊, 島 誠也, 丸山 啓史			
一般	選択必修	基礎数学AⅠ	履修単位	2	4																		金井 和貴			

一般	選択必修	基礎数学A II	0013	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	金井 和貴
一般	選択必修	基礎数学B I	0014	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	川勝 望
一般	選択必修	基礎数学B II	0015	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	安部 牧人
一般	選択必修	基礎数学C	0016	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	赤池 祐次
一般	選択必修	物理 I	0017	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	笠井 聖二
一般	選択必修	物理 II	0018	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	小林 正和
一般	選択必修	化学 I	0019	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	田中 慎一
一般	選択必修	化学 II	0020	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	田中 慎一
一般	選択必修	ライフサイエンス・アースサイエンス	0021	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	平野 彩 河上 洋輝
一般	選択必修	情報リテラシー	0022	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	大和 義昭
一般	選択必修	プロジェクトデザイン入門	0023	履修単位	2	<input type="text" value="4"/>	林 和彦 合村 仰仕 上寺 哲也 井上 浩孝 堀口 至 谷川 大輔 安箱 三敏 枝 玄希
一般	必修	LHR I	0029	履修単位	0	<input type="text" value="1"/> <input type="text" value="1"/>	下倉 玲子
一般	選択必修	インキュベーションワーク I	0030	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	林 和彦 合村 仰仕
専門	選択必修	建築設計製図 I	0024	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	河崎 啓太
専門	選択必修	ものづくり実習	0025	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	岩城 考信
専門	選択必修	造形 I	0026	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	間瀬 実郎
専門	選択必修	建築学入門	0027	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	篠部 裕
専門	選択必修	建築構法 I	0028	履修単位	1	<input type="text" value="2"/>	篠部 裕

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	古典文学 I	
科目基礎情報						
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『高等学校言語文化』(数研出版)・『プレミアムカラー 国語便覧』(数研出版)					
担当教員	石本 百合子,上芝 令子					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶ。 2. 古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解する。 3. 漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文が読めるようになる。 4. 古典を通じて古人のもの見方、思想様式を学び、今日に活用しうる発想を知る。 5. 古文、漢文の語彙の表現を学び、日本語表現の多様性を理解する。 6. 漢文訓読の知識を用いて、初歩的な漢文の文章が読めるようになる。 						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができる	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができる	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができない			
評価項目2	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を的確に理解できる	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解できる	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解できない			
評価項目3	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができる	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができる	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができない			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	中学校での古典学習をふまえ、古典入門の授業とする。古文、漢文を理解するための基礎学力を身につけ、古人の思索を理解することで豊かな教養を涵養する。日本語日本文化および東アジアの文化に対する深い見識を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜、課題提出も課す。新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。					
注意点	グローバル化が叫ばれる現代だからこそ、自らが立脚する日本語日本文化に対する幅広い知識、理解を持つことが肝要となる。異文化に対する柔らかな享受の姿勢は日本古典文学の世界が培ってきた伝統である。ぜひ真摯かつ積極的に学んでほしい。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス			
		2週	古文入門「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)	1、古文入門 古文と現代文の違いを知る。 仮名遣い・文法・語彙を学習し、古文の骨格を理解する。 品詞について学習する。 文学史的知識を身につける。		
		3週	古文入門「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)			
		4週	「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)			
		5週	漢文入門「入門一」(訓読の基礎)	2、漢文入門 漢文を読む際に必要な知識を学ぶ。 訓読のきまり、書き下し文を学ぶ。 人口に膾炙した格言、成句に対する知識を深める。		
		6週	「入門二」(再読文字・助字・置き字)			
		7週	中間試験			
		8週	答案返却・解説			
	4thQ	9週	「芥川」(「伊勢物語」)	1、古文基礎編その1 物語作品を読み、内容を理解し、鑑賞する。 文法・語彙を学習し、古典の作品世界を理解する。 用言の活用について学習する。 文学史的知識を身につける。		
		10週	「芥川」(「伊勢物語」)			
		11週	「つれづれなるままに」(「徒然草」)	2、古文基礎編その2 古典三大随筆を知り、その一端を鑑賞する。 文法・詩彙を学習し、古典世界に親しむ。 文学史的知識を身につける。		
		12週	故事成語「矛盾」	3、漢文「矛盾」「朝三暮四」を読解する。 訓読のきまりに従い、正確な書き下し文に改めることができる。 初歩的な漢文の内容理解ができる。 故事成語について学習する。		
		13週	故事成語「矛盾」			

		14週	故事成語「朝三暮四」	
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史総合 I
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『日本史A 現代からの歴史』 (東京書籍)				
担当教員	菊池 達也				
到達目標					
① 欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを説明できる。 ② 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 ③ 歴史に対する多様な見方を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを論理的かつ詳細に説明できる。	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを論理的に説明できる。	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを説明できない。		
評価項目2	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を論理的かつ詳細に説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を論理的に説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できない。		
評価項目3	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的かつ詳細に説明できる。	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的に説明できる。	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	江戸幕府の成立から第一次世界大戦までにおける世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。				
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。また必要に応じてDVDも利用する。理解度を確認するため授業中に小テストを実施することがある。				
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスの内容を説明できる。	
		2週	江戸幕府の支配と構造	江戸幕府がどのような支配を行っていたか説明できる。	
		3週	江戸幕府の動揺	江戸幕府がなぜ衰退していったか説明できる。	
		4週	欧米の台頭と日本の開国	日本がなぜ開国したのか、当時の世界情勢をふまえながら説明できる。	
		5週	江戸幕府の終焉 (1)	江戸幕府がどのようにして滅亡したかを説明できる。	
		6週	江戸幕府の終焉 (2)	江戸幕府がどのようにして滅亡したかを説明できる。	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	明治新政府の構想と展開	明治新政府が実施した諸改革について説明できる。	
		10週	憲法制定と国会開設に向けて	どのようにして憲法が制定され、国会が開設されたのか説明できる。	
		11週	条約改正	条約改正実現までの流れと、それが実現できた要因について説明できる。	
		12週	日清・日露戦争	明治期における日本の対外関係と、日清・日露戦争の背景・意義について説明できる。	
		13週	第一次世界大戦と日本 (1)	第一次世界大戦が起こった背景および第一次世界大戦が日本にとってどのような意義があったのか説明できる。	
		14週	第一次世界大戦と日本 (2)	第一次世界大戦が起こった背景および第一次世界大戦が日本にとってどのような意義があったのか説明できる。	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	5	25	0	100
基礎的能力	70	0	0	5	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史総合Ⅱ
-----------	------	-----------------	------	-------

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 選択必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	建築学科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『日本史A 現代からの歴史』 (東京書籍)		
担当教員	菊池 達也		

到達目標

- ①第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向を説明し、平和の意義について考察できる。
- ②冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
- ③歴史に対する多様な見方を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について論理的かつ詳細に説明できる。	第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について論理的に説明できる。	第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について説明できない。
評価項目2	冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を論理的かつ詳細に説明できる。	冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を論理的に説明できる。	冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を説明できない。
評価項目3	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的かつ詳細に説明できる。	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的に説明できる。	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)

教育方法等

概要	第一次世界大戦後から現在にいたるまでの世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。また必要に応じてDVDも利用する。理解度を確認するため授業中に小テストを実施することがある。
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------	----------------------------------------------------

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・歴史学とは何か	シラバスの内容を説明できる。歴史学とは何かを説明できる。
		2週	政党政治の展開	政党政治が広まっていった経緯とその要因について説明できる。
		3週	国際協調体制の模索と崩壊	第一次世界大戦後に世界が作りあげた国際協調体制のしくみと、それが崩壊した要因を説明できる。
		4週	政党政治の終焉と軍国化	政党政治の時代が終わった要因を説明できる。
		5週	第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦に日本が参戦した要因を説明できる。
		6週	冷戦	冷戦が生じた要因と、その後の展開について説明できる。
		7週	第二次世界大戦の実像	第二次世界大戦がいかに悲惨な戦いであったのかを説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	答案返却・解答説明	
		10週	占領下の日本	占領下の日本がどのように統治されていたかを説明できる。日本が独立するまでの過程を説明できる。
		11週	55年体制の成立と展開	55年体制がどのように成立したのか、なぜ長期間続いたのかを説明できる。
		12週	冷戦の終結と終わらない戦い	冷戦終結までの過程を説明できる。冷戦終結後の世界にどのような問題があるのかを説明できる。
		13週	55年体制の崩壊と政権交代の時代	なぜ55年体制が崩壊したのか、そして現在の政権にどのようにつながっているのかを説明できる。
		14週	まとめ	明治時代から現在にいたるまでの世界および日本の歴史的展開を説明できる。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後10,後11,後12,後13,後14
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後12,後13,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	5	25	0	100
基礎的能力	70	0	0	5	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 I	
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	MY WAY English Communication I (三省堂), MY WAY English Communication I ワークブック [スタンダード] (三省堂), MEW Exercise Book Core 500 (いっずな書店), MEW Exercise Book Days 1200 (いっずな書店), Reading Flash 2 (桐原書店), Active Listening 2 (第一学習社)					
担当教員	笠本 晃代, 大森 誠					
到達目標						
1. 教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる 2. 教科書の文法を理解し、使うことができる 3. 本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる 4. 副教材の内容を理解し、応用できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の新出語句や重要語句を覚え、適切に使うことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができない	
評価項目2	教科書の文法を理解し、適切に使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができない	
評価項目3	本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことが適切にできる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができない	
評価項目4	副教材の内容を理解し、応用することができる		副教材の内容を理解し、概ね応用することができる		副教材の内容を十分に理解できていない、応用することができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業では、演習を基本とし、アクティブラーニングで授業を行う。定期的に授業で単語テスト(小テスト)を実施する。定期的に、読解と聴解に特化した帯活動を行う。					
注意点	教科書や副教材だけでなく、辞書も必ず持参して活用すること。毎回必ず予習をして授業に臨むこと。授業内での活動だけでなく、自ら挙手をして発表するなど、積極的に授業に参加すること。配布プリントが多いので、各自ファイルを用意すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction 品詞感覚について、辞書指導			
		2週	Lesson 1-1			
		3週	Lesson 1-2			
		4週	Lesson 1-3			
		5週	Lesson 2-1			
		6週	中間まとめ			
		7週	中間試験			
		8週	テスト返し・解説			
	2ndQ	9週	Lesson 2-2			
		10週	Lesson 2-3			
		11週	Lesson 3-1			
		12週	Lesson 3-2			
		13週	Lesson 3-3			
		14週	前期総まとめ			
		15週	期末試験			
		16週	期末答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	

			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	

評価割合

	定期試験	小テスト	受講態度・提出物	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	MY WAY English Communication I (三省堂), MY WAY English Communication I ワークブック [スタンダード] (三省堂), MEW Exercise Book Days 1200 (いいずな書店), Reading Flash 1 (桐原書店), Active Listening 2 (第一学習社)					
担当教員	笠本 晃代, 大森 誠					
到達目標						
1. 教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる 2. 教科書の文法を理解し、使うことができる 3. 本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる 4. 副教材の内容を理解し、応用できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の新出語句や重要語句を覚え、適切に使うことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使えうことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができない	
評価項目2	教科書の文法を理解し、適切に使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができない	
評価項目3	本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことが適切にできる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができない	
評価項目4	副教材の内容を理解し、応用することができる		副教材の内容を理解し、概ね応用することができる		副教材の内容を十分に理解できていない、応用することができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業では、演習を基本とし、アクティブラーニングで授業を行う。定期的に授業で単語テスト(小テスト)を実施する。定期的に読解と聴解に特化した帯活動を行う。					
注意点	教科書や副教材だけでなく、辞書も必ず持参して活用すること。毎回必ず予習をして授業の臨むこと。授業内での活動だけでなく、自ら挙手をして発表するなど積極的に授業に参加すること。配布プリントが多いので、各自ファイルを用意すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction・学習指導			
		2週	Lesson 6-1			
		3週	Lesson 6-2			
		4週	Lesson 6-3			
		5週	Lesson 6-4			
		6週	授業のまとめ			
		7週	中間試験			
		8週	中間答案返却・解答説明			
	4thQ	9週	Lesson 8-1			
		10週	Lesson 8-2			
		11週	Lesson 8-3			
		12週	Lesson 8-4			
		13週	Lesson 10-1			
		14週	Lesson 10-2			
		15週	期末試験			
		16週	期末答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	

評価割合

	定期試験	小テスト	提出物	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『総合英語 Evergreen』, 『総合英語Evergreen English Grammar 23 Lessons』, 『総合英語Evergreen English Grammar 23 Lessons Workbook』(いいずな書店), 即戦ゼミ11 大学入試 ベストポイント 英語頻出問題 740 [最新三訂版] (桐原書店)				
担当教員	大森 誠				
到達目標					
講義や演習を通じて、英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	新出語句・表現を覚え、英文の中で適切に使うことができる。		新出語句・表現を覚え、英文の中で使うことができる。		新出語句・表現を覚え、英文の中で使うことができない。
評価項目2	英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。		英文法の基本的特性を理解し、表現することができる。		英文法の基本的特性を理解できず、表現することができない。
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	中学校で学習した英文法内容を基盤とし、講義や演習をとおして、基礎的な英語表現力を身につける。本授業は「反転授業」形式で実施する。詳しくは、初回の授業にて説明する。進度調整のため、「特別時間割」の際に1度補講を実施する予定である。				
授業の進め方・方法	毎回、課題プリント(宿題)を課す。授業の最後に学習した範囲での小テストを課す。1つの文法項目が終わるごとに、ベストポイント740をもとに単元末テストを行う。				
注意点	英文法の授業について： 予習では、授業動画を視聴し、文法書(Evergreen)を読み、概要を理解しておくこと。 授業中は、教科書問題、課題プリントおよび Workbookに取り組むこと。 予習で生じた疑問点や不明な点があれば、積極的に授業中および教員室に来て質問をすること。 定期試験後の成績は、評価割合に基づいた累積の評価点を提示する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の概要説明 Intro 1 文の成り立ち Intro 2 文の種類(1) Intro 3 文の種類(2)		
		2週	Intro 4 動詞と文型(1) Intro 5 動詞と文型(2)	小テスト	
		3週	Lesson 1 動詞と時制(1) Lesson 2 動詞と時制(2)	小テスト	
		4週	Lesson 3 動詞と時制(3)	小テスト	
		5週	Lesson 4 完了形(1) Plus 完了形	小テスト	
		6週	Lesson 5 完了形(2)	小テスト	
		7週	中間試験	Workbookの提出	
		8週	答案返却、解説 Lesson 6 助動詞(1)	小テスト ベストポイント740テスト(第2章)	
	2ndQ	9週	Lesson 7 助動詞(2) Plus 助動詞	例文テスト	
		10週	Lesson 8 態(1) Lesson 9 態(2)	小テスト ベストポイント740テスト(第3章)	
		11週	Plus 態	小テスト	
		12週	Lesson 10 不定詞(1) Lesson 11 不定詞(2)	小テスト ベストポイント740テスト(第7章)	
		13週	Lesson 12 不定詞(3) Plus 不定詞①	小テスト	
		14週	Plus 不定詞②	小テスト	
		15週	期末試験	Workbookの提出	
		16週	答案返却・解答説明 夏休み課題、夏休み明け課題試験の指示	小テスト ベストポイント740テスト(第4章)	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	単元末テスト	提出物	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『総合英語 Evergreen』, 『総合英語Evergreen English Grammar 23 Lessons』, 『総合英語Evergreen English Grammar 23 Lessons Workbook』(いいずな書店), 即戦ゼミ11 大学入試 ベストポイント 英語頻出問題 740 [最新三訂版] (桐原書店)					
担当教員	大森 誠					
到達目標						
講義や演習を通じて、英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	新出語句・表現を覚え、英文の中で適切に使うことができる。		新出語句・表現を覚え、英文の中で使うことができる。		新出語句・表現を覚え、英文の中で使うことができない。	
評価項目2	英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。		英文法の基本的特性を理解し、表現することができる。		英文法の基本的特性を理解できず、表現することができない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	中学校で学習した英文法内容を基盤とし、講義や演習をとおして、基礎的な英語表現力を身につける。「反転授業」形式で授業を実施する。進度調整のため、「特別時間割」の際に補講を実施する予定である。					
授業の進め方・方法	毎回、課題プリントを課す。授業終了前に学習した範囲での小テストを課す。1つの文法項目が終わるごとに、ベストポイント740をもとに単元末テストを行う。					
注意点	英文法の授業について：予習では、授業動画を視聴し、文法書 (Evergreen) を読み、概要を理解しておくこと。授業では、教科書問題、課題プリントおよび Workbookに取り組むこと。予習で生じた疑問点や不明な点があれば、積極的に授業中もしくは教員室に来て質問をすること。定期試験後の成績は、評価割合に基づいた累積の評価点を提示する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	夏休み明け課題試験 Lesson 13 動名詞			
		2週	Plus 動名詞	小テスト		
		3週	Plus 動名詞と不定詞	ベストポイント740テスト (第5章)		
		4週	Lesson 14 分詞 (1) Lesson 15 分詞 (2)	小テスト		
		5週	Lesson 16 分詞 (3) Plus 分詞	ベストポイント740テスト (第6章)		
		6週	Lesson 17 比較 (1) Lesson 18 比較 (2)	小テスト		
		7週	Plus 比較	ベストポイント740テスト (第10章)		
		8週	中間試験	Workbookの提出		
	4thQ	9週	答案返却, 解説 Lesson 19 関係詞 (1)	小テスト		
		10週	Lesson 20 関係詞 (2) Lesson 21 関係詞 (3)	小テスト		
		11週	Plus 関係詞	ベストポイント740テスト (第11章)		
		12週	第22章 仮定法 (1)	小テスト		
		13週	第23章 仮定法 (2)	小テスト		
		14週	Plus 仮定法	ベストポイント740テスト (第12章)		
		15週	期末試験	Workbookの提出		
		16週	答案返却・解答説明 春休み課題の指示			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	

		英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
--	--	-------------	-------------------------------------------	---	--

評価割合					
	試験	小テスト	単元末テスト	提出物	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健		
科目基礎情報							
科目番号	0010	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	渡邊正樹ほか『最新高等保健体育』（大修館書店）						
担当教員	丸山 啓史						
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができる。 2. 生活習慣病の予防について理解できる 3. 喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できる。 4. 薬物の種類とその健康への影響について理解できる。 5. エイズ・性感染症の現状の理解とその予防をすることができる。 6. 応急手当の意義やその基本、心肺蘇生法の理論を理解し、実践することができる。 7. 思春期における性意識を理解し、適切な性行動を選択することができる。 8. 妊娠・出産のメカニズムについて理解できる。 9. 避妊法と人工妊娠絶について理解できる 							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択が適切にできる	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができる	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができない				
評価項目2	生活習慣病の予防について適切に理解できる	生活習慣病の予防について理解できる	生活習慣病の予防について理解できない				
評価項目3	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について適切に理解できる	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できる	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。						
授業の進め方・方法	講義を基本とする						
注意点	現在及び将来の生活を健康で安全に暮らしていくための大切な授業です。質問がある場合には、放課後やオフィスアワーを利用して積極的に質問に来てください。予習としては、事前に教科書に目を通し、疑問点を明確しておくことです。授業では、講義内容や板書の内容を理解し、理解できない点は随時質問してください。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション				
		2週	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち			
		3週	現代社会と健康	私たちの健康のすがた			
		4週	現代社会と健康	生活習慣病とその予防			
		5週	現代社会と健康	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方			
		6週	現代社会と健康	喫煙と健康			
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解答説明				
	2ndQ	9週	現代社会と健康	飲酒と健康			
		10週	現代社会と健康	薬物乱用と健康			
		11週	生涯を通じる健康	感染症とその予防、性感染症・エイズ予防			
		12週	生涯を通じる健康	思春期と健康			
		13週	生涯を通じる健康	性への関心・欲求と性行動			
		14週	生涯を通じる健康	妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠絶			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	濱口 和人,豊島 誠也,丸山 啓史				
到達目標					
1. 自分の体力レベルを把握できる。 2. バレーボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。 3. バレーボールの集団的技能をゲームで生かすことができる。 4. バレーボールのゲームを企画・運営ができる。 5. バスケットボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。 6. バスケットボールの集団的技能をゲームで生かすことができる。 7. バスケットボールのゲームを企画・運営ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の体力レベルを適切に把握できる	自分の体力レベルを把握できる	自分の体力レベルを把握できない		
評価項目2	バレーボールの技能をゲームで生かすことが適切にできる	バレーボールの技能をゲームで生かすことができる	バレーボールの技能をゲームで生かすことができない		
評価項目3	バスケットボールの技能をゲームで生かすことが適切にできる	バスケットボールの技能をゲームで生かすことができる	バスケットボールの技能をゲームで生かすことができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。協調性と安全・確実・敏速に行動ができるような態度を養う。ゲームに必要な個人的技能や集団的技能を高め、技能の程度に応じた作戦を工夫してゲームができるようにするとともに、得点や勝敗を競う過程や結果に喜びや楽しさを味わう。				
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。				
注意点	学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・新体カテスト	1. 新体カテスト 新体カテストの測定項目を理解し、正しい測定を実施できる 自らの得点を集計し、自己評価できる	
		2週	新体カテスト		
		3週	新体カテスト		
		4週	トレーニングルーム利用講習	2. トレーニングルーム利用講習 トレーニングルーム利用に係る安全管理を理解し、基本的なトレーニングの基本姿勢、動作を習得、実践できる。また、トレーニング原理・原則の基本について説明ができる。	
		5週	集団行動・体育祭の種目	3. 体育祭種目 体育祭種目を理解し、他者と協力して安全に競技を実施できる	
		6週	バレーボール	4. バレーボール バレーボールの技術・ルールを理解し、学習した審判法を基準に体育で実践するバレーボール試合の審判ができる。 サーブ、オーバーハンドレシーブ、アンダーハンドレシーブ、スパイクを代表とする個人技能を修得し、試合で実践できる。	
		7週	バレーボール		
		8週	バレーボール		
	2ndQ	9週	バレーボール		
		10週	バレーボール		
		11週	バレーボール		
		12週	バレーボール		
		13週	バレーボール		
		14週	バレーボール・スキルテスト		
		15週	バレーボール・スキルテスト		
		16週	バレーボール・スキルテスト		

後期	3rdQ	1週	球技大会の種目	5. 球技大会種目の練習 球技大会の種目を理解し、他者と協力して安全に競技を実施できる
		2週	球技大会の種目	
		3週	バスケットボール	6. バスケットボール バスケットボールの技術・ルールを理解し、学習した審判法を基準に体育で実践するバスケットボール試合の審判ができる ゴール下シュート、レイアップ、セットシュート、ドリブル、チェストパスを代表とする個人技能を修得し、試合で実践できる。
		4週	バスケットボール	
		5週	バスケットボール	
		6週	バスケットボール	
		7週	バスケットボール	
		8週	バスケットボール	
	4thQ	9週	バスケットボール	
		10週	バスケットボール	
		11週	バスケットボール	
		12週	バスケットボール	
		13週	持久走	7. 持久走 長距離走の特性を理解し、駅伝大会で実践できる
		14週	バスケットボール・スキルテスト	
		15週	バスケットボール・スキルテスト	
		16週	バスケットボール・スキルテスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 A I
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	新井一道 他著「新基礎数学 改訂版」(大日本図書)				
担当教員	金井 和貴				
到達目標					
1. いろいろな数と式について四則計算ができること 2. いろいろな方程式, 不等式が解け, また証明ができる 3. 2次関数の性質を理解し, グラフがかけること					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	いろいろな数と式について四則計算が適切にできる。		いろいろな数と式について四則計算ができる。		いろいろな数と式について四則計算ができない。
評価項目2	方程式, 不等式が解け, 証明が適切にできる。		方程式, 不等式が解け, 証明ができる。		方程式, 不等式が解けず, 証明ができない。
評価項目3	2次関数の性質を理解し, グラフが適切に描くことができる。		2次関数の性質を理解し, グラフが描くことができる。		2次関数の性質を理解できず, グラフが描けない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)					
教育方法等					
概要	中学校の数学をもとにして, 高専数学のための基礎づくりを目的としています。整式の計算から入り, 方程式や不等式, 2次関数などを学習し, 数学的な考え方や計算技術などの習得を目指します。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につけるものです。				
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。 【新型コロナウイルスの影響により, 授業内容を一部変更する可能性があります。】				
注意点	これから学んでいく数学および専門科目の基礎中の基礎なので, 分からないところを残しておくこと進級が難しくなります。基本的なことからはじめて授業を進める予定です。数学の学習は授業内容を復習し, 実際に自分で手を動かして問題を解いてみるのが大切です。もし, 授業を聴いてわからないところはどンドン質問してください。随時質問は受け付けます。 中学校の数学から引き続き勉強する広い数学の世界を楽しんで行ってほしいと思います。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の計算	整式の加減乗除の計算や, 式の展開ができる。	
		2週	因数分解	整式の因数分解ができる。	
		3週	剰余の定理と因数定理	因数定理等を利用して, 4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	
		4週	分数式, 複素数	分数式の加減乗除の計算ができ, また実数, 平方根, 複素数の基本的な計算ができる。	
		5週	2次方程式	解の公式等を利用して, 2次方程式を解くことができる。	
		6週	いろいろな方程式	因数定理等を利用して, 基本的な高次方程式を解くことができ, また簡単な連立方程式, 無理方程式・分数方程式を解くことができる。	
		7週	いろいろな方程式・無理方程式・分数方程式	因数定理等を利用して, 基本的な高次方程式を解くことができ, また簡単な連立方程式, 無理方程式・分数方程式を解くことができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	恒等式, 等式の証明	恒等式と方程式の違いを区別でき, 部分分数への分解等ができる。等式の証明ができる。	
		10週	不等式	1次不等式や2次不等式を解くことができる。	
		11週	2次関数のグラフ, 2次関数と2次方程式	2次関数の性質を理解し, グラフをかくことができ, 最大値・最小値を求めることができる。	
		12週	2次不等式	2次関数の性質を理解し, グラフを利用し2次不等式を求めることができる。	
		13週	集合・命題	集合と命題について理解できる。	
		14週	命題の証明	必要条件, 十分条件について理解し, 背理法を用いた証明ができる。	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	整式の加減乗除の計算や, 式の展開ができる。	3	前1
			因数定理等を利用して, 4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	前2,前3,前6

			分数式の加減乗除の計算ができる。	3	前4
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	前4
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	前4
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	前4
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	前5
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	前6
			簡単な連立方程式を解くことができる。	3	前6
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	前6,前7
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	前10,前12
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	前9
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ および態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 A II
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	新井一道 他著「新基礎数学 改訂版」(大日本図書)				
担当教員	金井 和貴				
到達目標					
1. べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフがかけること。 2. 指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフがかけること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことが適切にできる。	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことができる。	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことができない。		
評価項目2	指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフをかくことが適切にできる。	指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	指数関数, 対数関数の性質を理解できず, グラフをかくことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)					
教育方法等					
概要	基礎数学A IIに続き, 高専数学のための基礎づくりを目的としている。べき関数, 分数関数, 無理関数, 逆関数, 指数関数, 対数関数などを学習し, 数学的な考え方や計算技術などの習得を目指す。				
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。 【新型コロナウイルスの影響により, 授業内容を一部変更する可能性があります。】				
注意点	これから学んでいく数学および専門科目の基礎中の基礎なので, 分からないところを残しておくこと進級が難しくなります。基本的なことからはじめて授業を進める予定です。数学の学習は授業内容を復習し, 実際に自分で手を動かして問題を解いてみるのが大事です。もし, 授業を聴いてわからないところはどンドン質問してください。随時質問は受け付けます。 基礎数学A Iから引き続き勉強する広い数学の世界を楽しんで行ってほしいと思います。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	いろいろな関数	べき関数や分数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		2週	いろいろな関数	べき関数や分数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		3週	いろいろな関数	べき関数や分数関数や無理関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		4週	いろいろな関数	べき関数や分数関数や無理関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		5週	いろいろな関数	簡単な場合について, 関数の逆関数を求め, そのグラフをかくことができる。	
		6週	いろいろな関数	簡単な場合について, 関数の逆関数を求め, そのグラフをかくことができる。	
		7週	指数関数・対数関数	指数関数の定義・基本性質を理解できる。対数の意味を理解し, 定義・基本性質を理解できる。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	指数関数・対数関数	指数関数のグラフをかくことができ, 指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	
		10週	指数関数・対数関数	指数関数のグラフをかくことができ, 指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	
		11週	指数関数・対数関数	対数の意味を理解し, 対数を利用した計算ができる。	
		12週	指数関数・対数関数	対数の意味を理解し, 底の変換公式などを用いて対数の計算ができる。	
		13週	指数関数・対数関数	対数関数の性質を理解し, グラフをかくことができ, 対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	
		14週	指数関数・対数関数	対数関数の性質を理解し, グラフをかくことができ, 対数関数を含む簡単な方程式を解くことができ, 常用対数表を利用できる。	
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	分数関数や無理関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	3	後1,後2,後3,後4
			簡単な場合について, 関数の逆関数を求め, そのグラフをかくことができる。	3	後5,後6

			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	後7
			指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後9
			指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後10
			対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	後11,後12
			対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後13
			対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ および態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 B I		
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	新井一道 他著「新 基礎数学 改訂版」(大日本図書) 新井一道 他著「新 基礎数学問題集 改訂版」(大日本図書)						
担当教員	川勝 望						
到達目標							
1. 座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題が解ける。 2. 2次曲線の問題が解ける。不等式の表す領域が図示できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題を解くことができる		座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題を解くことができる		座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解せず, 問題を解くことができない		
評価項目2	2次曲線, 不等式の問題が適切に解ける		2次曲線, 不等式の問題が解ける		2次曲線, 不等式の問題が解けない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	中学校で学んだ数学に続いて平面図形(直線や2次曲線)の方程式を学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。						
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。新型コロナウイルスの影響により, 授業内容を一部変更する可能性があります。						
注意点	これから学んでいく数学および工学の基礎なので, 分からないところを残しておくことと進級してから大変苦労します。答えが正しいというだけでは駄目で, 答えを出すまでを正しく記述することが大切です。授業をしっかりと聞き, 「なぜこうなるか」を自分の頭で考え, 自分で問題を解くようにしましょう。わからない場合は積極的に質問してください。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	点と直線	2点間の距離を求めることができる			
		2週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる			
		3週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる			
		4週	2直線の関係	2直線の関係を求めることができる			
		5週	2直線の関係	2直線の関係を求めることができる			
		6週	円の方程式	円の方程式を求めることができる			
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解答説明 楕円	楕円の方程式を求めることができる			
	2ndQ	9週	双曲線	双曲線の方程式を求めることができる			
		10週	放物線	放物線の方程式を求めることができる			
		11週	2次曲線と直線	2次曲線の接線を求めることができる			
		12週	2次曲線と直線	2次曲線の接線を求めることができる			
		13週	不等式と領域	不等式が表す領域を求めることができる			
		14週	不等式と領域	不等式が表す領域を求めることができる			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	数学	数学	2点間の距離を求めることができる。	3	前1		
			内分点の座標を求めることができる。	3	前1,前2		
			2つの直線の平行・垂直条件を利用して, 直線の方程式を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前5		
			簡単な場合について, 円の方程式を求めることができる。	3	前6		
			放物線, 楕円, 双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12		
簡単な場合について, 不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	前13,前14					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
-------	---	---	---	---	---	---	---

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 B II		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	新井一道 他著「新基礎数学」(大日本図書)						
担当教員	安部 牧人						
到達目標							
1. 場合の数が計算できる 2. 数列の一般項, 和が計算できる。およびそれらに関係することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	場合の数が適切に計算できる		場合の数が計算できる		場合の数が計算できない		
評価項目2	数列の一般項, 和が適切に計算できる		数列の一般項, 和が計算できる		数列の一般項, 和が計算できない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	前期で学んだ基礎数学BIに続き, 場合の数, 数列に関することなどを学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。						
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。						
注意点	これから学んでいく数学および工学の基礎なので, 分からないところを残しておくことと進級してから大変苦労します。答えが正しいというだけでは駄目で, 答えを出すまでを正しく記述することが大切です。授業をしっかりと聞き, 「なぜこうなるか」を自分の頭で考え, 自分で問題を解くようにしましょう。わからない場合は積極的に質問してください。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則, 和の法則の違いを説明できる			
		2週	順列	順列の計算ができる			
		3週	組み合わせ	組み合わせの計算ができる			
		4週	いろいろな順列	いろいろな順列の計算ができる			
		5週	いろいろな順列	いろいろな順列の計算ができる			
		6週	二項定理	二項定理の計算ができる			
		7週	二項定理	二項定理の計算ができる			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	数列・等差数列	数列とは何か説明できる・等差数列の一般項やその和を求めることができる			
		10週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる			
		11週	数列の和	数列の和を求めることができる			
		12週	数列の和	数列の和を求めることができる			
		13週	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数学的帰納法を用いることができる			
		14週	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数学的帰納法を用いることができる			
		15週	学年末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	積の法則と和の法則を利用して, 簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	後1	
				簡単な場合について, 順列と組み合わせの計算ができる。	3	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	後9, 後10	
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	後11, 後12, 後13, 後14	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオおよび態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報リテラシー
科目基礎情報					
科目番号	0022	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	定平誠『例題50+演習問題100でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキスト』				
担当教員	大和 義昭				
到達目標					
情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明でき、それに基づいた判断・行動ができる。 文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができる。 表計算ソフトの基本的な使い方が理解できる。 プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明でき、それに基づいた判断・行動ができる	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明できる	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解していない		
評価項目2	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画が適切にできる	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができる	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができない		
評価項目3	表計算ソフトの基本的な使い方が理解でき、適切に利用できる	表計算ソフトの基本的な使い方が理解でき、利用できる	表計算ソフトの基本的な使い方が理解できていない		
評価項目4	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表が適切にできる	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができる	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができていない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)					
教育方法等					
概要	現代社会においてパソコンを使用する文書作成や表計算、インターネットや電子メールを使う能力は必要不可欠である。本授業ではパソコンを操作するために必要な基礎知識およびワープロ等の操作を学習する。また情報を処理・活用する上で重要な情報倫理・セキュリティも学ぶ。本授業は進学と就職に関連する。				
授業の進め方・方法	テキストを用いた解説および実習を主とする。適宜レポートを課す。コロナの上場により授業変更の可能性あり。				
注意点	情報倫理・セキュリティについては、e-ラーニングなどで実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	高専でのPCの使い方・windows環境	高専でのPCの使い方・windows環境を理解している	
		2週	情報倫理・情報セキュリティ	情報倫理・情報セキュリティについて説明できる	
		3週	eラーニング・インターネット・webの使い方	eラーニング・インターネット・webの使い方について理解している	
		4週	Wordの使い方	Wordの基本的な使い方を理解している	
		5週	Wordの使い方	Wordの基本的な使い方を理解している	
		6週	Wordを使った演習課題	Wordの基本的な使い方を理解している	
		7週	PowerPointの使い方	PowerPointを用いた発表ができる	
		8週	PowerPointを使った資料作成	PowerPointを用いた発表ができる	
	2ndQ	9週	PowerPointを使った資料作成	PowerPointを用いた発表ができる	
		10週	発表会 (プレゼンテーションの練習)	PowerPointを用いた発表ができる	
		11週	Excelの使い方	Excelの基本的な使い方を理解している	
		12週	Excelの使い方・演習問題	Excelの基本的な使い方を理解している	
		13週	Excelの使い方	Excelの基本的な使い方を理解している	
		14週	Excelの使い方・演習問題	Excelの基本的な使い方を理解している	
		15週	Excelの使い方・演習問題・振り返り	Excelの基本的な使い方を理解している	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	前1,前2,前11
			コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3	前1,前2
			情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	3	前1,前2,前3
			情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	前1,前2
			個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	前1,前2

				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	前1,前2	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	前1,前2	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	10	70	0	100
基礎的能力	0	10	0	10	35	0	55
専門的能力	0	10	0	0	35	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	LHR I
科目基礎情報					
科目番号	0029	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 0		
開設学科	建築学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	使用しない				
担当教員	下倉 玲子				
到達目標					
<p>1. ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p> <p>2. 学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>3. SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ホームルーム活動を通して、率先して望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を十分に発揮できる。	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を持っている。	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成できない、あるいは、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度がない。		
評価項目2	学校行事を通して、率先して集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を十分に発揮できる。	学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を持っている。	学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深めることができない、あるいは、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度がない。		
評価項目3	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化し、目標に向かって実践できる。	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できる。	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ホームルーム活動や学校行事、呉高専キャリア教育プランSAPARの活動等を通じて、望ましい人間関係の構築、集団への所属意識や連帯感を深め、公共の精神を養い、諸問題を解決し協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てるとともに、自らのキャリア形成について考える。				
授業の進め方・方法	年間の計画はこのシラバスに記載のとおりですが、詳細は半期ごとに計画し教室内に掲示します。 【新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります】				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	新入生オリエンテーション		
		2週	1年合同HR(身だしなみ指導・交通安全教室)		
		3週	遠足		
		4週	1年合同HR(防災教育)		
		5週	心と体の健康調査・生活習慣調査		
		6週	1年合同HR(携帯電話安全教室)		
		7週	中間試験について		
		8週	1年合同HR(カウンセラー講話)		
	2ndQ	9週	学級活動		
		10週	他学科合同のレクリエーション		
		11週	学級活動		
		12週	学級活動		
		13週	学級活動		
		14週	期末試験について		
		15週	夏休みの生活について		
		16週			
後期	3rdQ	1週	校長訓話・後期開始にあたって		
		2週	球技大会について		
		3週	高専祭について		
		4週	合同津波避難訓練		
		5週	高専祭準備		
		6週	高専祭準備		
		7週	中間試験について		
		8週	防火訓練		
	4thQ	9週	学級活動		

	10週	学級活動	
	11週	先輩の話 (SAPAR)	
	12週	学級活動	
	13週	国際交流イベント報告会	
	14週	学年末試験について	
	15週	1年を振り返って	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	80	0	80

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	建築設計製図 I
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	専門 / 選択必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『建築設計製図』 (実教出版社)				
担当教員	河崎 啓太				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。 製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。 製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法をよく体験・理解し, 適切に説明できる。	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解せず, 説明できない。		
評価項目2	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を適切に作成できる。	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できない。		
評価項目3	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で適切に作成できる。	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)					
教育方法等					
概要	本科目の目的は, 建築製図の基本となる製図用具の使い方と製図規約の習得と, 基礎的な建築設計図面の製図法を習得することである。この目的を達成するため, 授業は平行定規を使用し, 教科書に記載された手本教材を手書きで正確に模写する実習を行う。建築士試験では製図試験も必須であるため, 製図規約を学習する本科目は就職や将来建築技術者としての実務に大いに関連する。				
授業の進め方・方法	演習を中心として, 適宜講義・説明を加え, 課題を出す。				
注意点	成績については「評価割合」の欄を参照する。この欄の「総合評価割合」の「合計」100%のうち, 60%以上達成すれば合格となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	1週	指導教員による製図道具の説明, 基礎製図, 線の練習	製図用具の特性を理解し, 使用できる。		
	2週	基礎製図, 線の練習	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。		
	3週	基礎製図, 文字, 平面表示記号の書き方練習 1 週目	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。		
	4週	基礎製図, 文字, 平面表示記号の書き方練習 2 週目	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。		
	5週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	6週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	7週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 3 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	8週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 4 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	9週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 5 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	10週	1/50平面図の書き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	11週	1/50平面図の書き方練習 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	12週	部分詳細図 (基礎部分) の書き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	13週	部分詳細図 (基礎部分) の書き方練習 2 週目	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。		
	14週	1/100平面図設計課題 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	15週	1/100平面図設計課題 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		
	16週	1/100平面図設計課題 3 週目 (発表会)	自らが作成した図面について, 的確にプレゼンテーションができる。		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、使用できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				線の描き分け(3種類程度)ができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				建築の各種図面の意味を理解し、描けること。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				図面の種類別の各種図の配置を理解している。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				図面の尺度・縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6
				与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスが描ける。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかける。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				建築の構成要素(形と空間の構成)について説明できる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				建築における形態(ものの形)について説明できる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	20	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	10	40	0	50
専門的能力	0	10	0	10	30	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ものづくり実習
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	専門 / 選択必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	必要な内容はプリントとして配布。				
担当教員	岩城 考信				
到達目標					
1. 作業の方法を理解し、正確かつ安全に作業ができる。 2. デザイン性のあるツリーハウスやスツールを設計し、製作できる。 3. 実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
作業の方法を理解した、正確かつ安全な作業	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を適切に実践できる。	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を実践できる。	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を実践できない。		
デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作が適切にできる。	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作ができる。	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作ができない。		
実験や実習の成果のプレゼンテーションと報告書の作成	実習の成果をプレゼンテーションと報告書として適切にまとめることができる。	実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができる。	実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)					
教育方法等					
概要	ものづくりに関する基礎的な知識・技術を身に付け、実験や実習による体験を通して、各分野における技術への興味・関心を高め、その意義や役割を理解して、広い視野を養うとともに工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。本演習は創造力や工夫する力を身につけることができるものである。				
授業の進め方・方法	各学生の設計意図や能力に応じた個別指導を基本とする。初期段階では、4～5名のグループ内で意見交換し、卓上に置く文房具入れのアイデアを固める。その後個別に設計と工作を行い作品を完成させる。完成後、発表会を行う。				
注意点	道具の誤った使い方、気を抜いた作業をすると大怪我をすることがあるので、安全に注意し、集中して授業に望むこと。また、分らないことがあれば、そのままにせず、質問すること。 評価方法：出席状況10%+実習態度10%+発表10%+作品の評価60%+報告書10%=100% (100点) で成績評価を行う。 評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課題「ツリーハウス」の課題説明とチーム課題	10以上の案の提案をチームで行う。	
		2週	設計案の作成	決められた材料に対する設計を行うことができる。	
		3週	模型の作成	決められた材料の模型を作製することができる。	
		4週	模型の作成	決められた材料の模型を作製することができる。	
		5週	講評会 (発表のみ)	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表することができる。	
		6週	第2課題「ダンボールスツール」の課題説明と設計案の作成 1	決められた材料に対する設計を行うことができる。	
		7週	設計案の作成 2	決められた材料に対する設計を行うことができる。	
		8週	設計案の作成 3	決められた材料に対する設計を行うことができ、かつスタディ模型の作成ができる。	
	2ndQ	9週	設計案の作成 4	決められた材料に対する設計を行うことができ、かつスタディ模型の作成ができる。	
		10週	部材の加工 1	決められた材料を適切に加工することができる。	
		11週	部材の加工 2	決められた材料を適切に加工することができる。	
		12週	部材の組み立て 1	部材の組み立てを行うことができる。	
		13週	部材の組み立て 2	部材の組み立てを行うことができる。	
		14週	講評会 1	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表し、質問に回答することができる。	
		15週	講評会 2	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表し、質問に回答することができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3
				個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3
				共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3
				レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3

評価割合							
	試験	発表	報告書	態度	ポートフォリオ	出席状況	合計
総合評価割合	0	10	10	10	60	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	10	10	60	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	造形 I		
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	課題プリント等						
担当教員	間瀬 実郎						
到達目標							
2点パースの作図ができること。 スチレンボードを使った模型の製作ができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	正確な作図・デザイン性・工作力の優れた作品		一定以上の作図・工作力		作図不能・工作不能		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	2点透視図の作成と自由設計の模型をおこなう。本科目は建築作品プレゼンテーションの基本となるものであり、就職と進学の両方に関連する。						
授業の進め方・方法	パース、模型とも演習形式とする						
注意点	成績評価は「評価割合」の欄を参照する。この欄の「総合評価割合」の「合計」100%のうちの60%以上達成すれば合格となる。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	2点透視図キットの使い方	基本作図方法の習得			
		2週	住宅の2点パースの作成	概形作図			
		3週	住宅の2点パースの作成	開口、サッシ等の作図			
		4週	住宅の2点パースの作成	添景、仕上げ			
		5週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	概形作図			
		6週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	添景、仕上げ			
		7週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	添景、仕上げ			
	4thQ	8週	スチレンボード加工方法	エスキース			
		9週	模型制作	概形着手			
		10週	模型制作	概形完成			
		11週	模型制作	詳細着手			
		12週	模型制作	詳細着手			
		13週	模型制作	詳細着手			
		14週	模型制作	完成仕上げ			
		15週	講評会	作品の説明、プレゼンテーション			
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、使用できる。	4		
				線の描き分け(3種類程度)ができる。	4		
				文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	4		
				立体的な発想とその表現(例えば、正投影、単面投影、透視投影などを用い)ができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8	
				各種模型材料(例えば、紙、木、スチレンボードなど)を用い、図面をもとに模型を製作できる。または、BIMなどの3D-CADにより建築モデルを作成できる。	4	後1,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	0	90	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

専門的能力	0	10	0	0	90	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	建築学入門	
科目基礎情報						
科目番号	0027	科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科	対象学年	1			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	自作講義メモ					
担当教員	篠部 裕					
到達目標						
1. 建築に求められる様々なニーズを身近な生活を例に説明できる。 2. 建築に関する様々な専門知識や技術の所在を身近な生活を例に説明できる。 3. 建築をテーマとする基礎的な演習課題を通じて、自学・自習を行える主体的な学習習慣を身に付ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
建築と身近な生活や社会との関係	建築と身近な生活や社会との関係を適切に説明できる	建築と身近な生活や社会との関係を説明できる	建築と身近な生活や社会との関係を説明できない			
建築に関する専門知識や技術の基礎	建築に関する専門知識や技術の基礎を適切に説明できる	建築に関する専門知識や技術の基礎を説明できる	建築に関する専門知識や技術の基礎を説明できない			
建築をテーマとする基礎演習	建築をテーマとする基礎演習を適切に実施できる	建築をテーマとする基礎演習を実施できる	建築をテーマとする基礎演習を実施できない			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)						
教育方法等						
概要	建築とは何か、建築学の全体像を概観することを主たる目的とする。建築学は他の工学と比較して幅広い専門分野の上に構築される学問である。建築に関連する様々な専門分野の存在、建築を多面的な視点で捉えることの意味、建築と生活そして社会との関わりなど、建築を学ぶ上での基礎知識を習得することを目的としている。					
授業の進め方・方法	授業は毎回配布する講義メモを中心に行う。また、建築に関する基礎的なレポート課題を実施する。					
注意点	成績評価の割合については、この科目シラバスの最下部にある「評価割合」の欄をご覧ください。この欄にある「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格となります。試験については、中間試験30%と期末試験30%として扱います。「好きこそものの上手なれ」という言葉があるように、建築を学ぶ上でまず大切なことは「建築を好きになる」ことです。普段から図書館に足を運び、建築関係の雑誌をみる習慣を身に付け、自分好みの建築を1つでも多く見つけてください。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	建築とは、建築の学び方	建築の定義、建築の学び方の基本を理解している。		
		2週	建築と建築学、建築の専門領域	建築学と建築の専門領域の概要をカリキュラムを例に説明できる。		
		3週	建築と生産、建築を取り巻く建設産業界	住宅の建設プロセスの大まかな流れ、建設産業界の全体像を身近な例で説明できる。		
		4週	日本建築の成り立ち	日本建築の成り立ちや歴史を住宅を例に説明できる。		
		5週	建築と環境	建築と環境、風土の関係性について説明できる。		
		6週	建築と都市	個々の建築が歴史を積み重ね、集落や都市を形成していることを説明できる。		
		7週	中間試験	中間試験までの学習内容を理解している。		
		8週	答案返却・解答説明、建築の安全性	建築の安全が求められる背景を身近な災害を例に説明できる。		
	2ndQ	9週	建築の美しさ	比例、シンメトリー、コントラストなどの美的原理の基礎を説明できる。		
		10週	持続可能な社会と生活	日常生活レベルにおける持続可能な生活と建築のあり方を説明できる。		
		11週	持続可能な社会と建築	持続可能な社会形成と建築のあり方の関係を説明できる。		
		12週	持続可能な社会と都市	持続可能な社会形成と都市のあり方の関係を説明できる。		
		13週	建築の保存と再生	歴史的建築の保存と再生のあり方を説明できる。		
		14週	学習内容の振り返り	1週から13週までの学習内容の要点を、建築入門学習したを使って説明できる。		
		15週	前期末試験	前期末試験までの学習内容を理解している。		
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	レポート	態度	その他	合計
総合評価割合	60	0	35	5	0	100
基礎的能力	60	0	35	5	0	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	建築構法 I	
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	桑村仁『建築構法』(実教出版)、大野義照『必携建築資料』(実教出版)、実教出版編集部『建築構法演習ノート』(実教出版)					
担当教員	篠部 裕					
到達目標						
建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解する 在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解する						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について適切に理解している		建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解している		建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解できていない	
評価項目2	在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について適切に理解している		在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解している		在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解できていない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)						
教育方法等						
概要	「建築構法」の授業は建築物がどのようにして形作られるのかを学ぶものであり、1年次では木質構造を対象として、構造の特徴、材料の基本的な性質や木質構造を構成する部材の種類や役割について学習する。本授業は就職・進学のいずれにも関係する。					
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜レポート課題を課す。					
注意点	「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格とします。試験については、中間試験35%と期末試験35%として扱います。 この科目の内容を理解するためには、教科書の内容をただ覚えるのではなく、身近にある建築物を観察してその建築物がどのようにしてつくられているのかを実際に見ることや授業の内容との対応を自分で考えることがとても重要です。日頃からたくさんの建築物を見て考える習慣を身に付けてください。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	災害による建築物の被害、建築構法の歴史	建築構法の歴史的発達のあらましの基礎を説明できる		
		2週	建築構法の分類、建築物に働く力、法規・規準	建築構法の材料・作り方・形による分類を、建築物に働く力の種類を説明できる		
		3週	木構造の構造形式、木材	木構造と特徴と構造形式を説明できる		
		4週	木材の性質と木質材料	木材の性質と木質材料の特徴を説明できる		
		5週	木質構造の接合方法	木質構造の接合方法について、継手・仕口・接合金物を説明できる		
		6週	基礎、軸組の構成、土台	基礎を支える地盤の性質と基礎の役割や構成について説明できる		
		7週	中間試験	中間試験までの学習内容を理解している。		
		8週	答案返却・解答説明、軸組の構成部材	軸組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
	4thQ	9週	耐力壁と筋かい	耐力壁と筋かいの役割について説明できる		
		10週	小屋組	小屋組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		11週	床組	床組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		12週	階段、開口部	階段、開口部について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		13週	外部仕上げ	外部仕上げについて主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		14週	内部仕上げ	内部仕上げについて主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		15週	学年末試験	学年末試験までの学習内容を理解している。		
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	建築構法の成り立ちを説明できる。	4	後1
				建築構法(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。	4	後2
				骨組構造物に作用する荷重の種類について説明できる。	4	後2
				木構造の特徴・構造形式について説明できる。	4	後3,後4
				木材の接合について説明できる。	4	後5

				基礎、軸組み、小屋組み、床組み、階段、開口部などの木造建築の構法を説明できる。	4	後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
--	--	--	--	-----------------------------------------	---	------------------------------

評価割合

	試験	小テスト	レポート	態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	25	5	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	25	5	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0